



## 目次

角山学長あいさつ	・・・ 2
上野会長あいさつ	・・・ 3
浅田先生インタビュー	・・・ 4、5
大学の近況	・・・ 6～8
2007年度就職状況	・・・ 9
同窓会事業報告	・・・ 10～15

## 角山学長あいさつ



**学長  
角山 茂章**

卒業生の皆さんには、社会、あるいは教育機関と様々な分野に出られ活発に活動なされていることと思います。

さて、会津大は法人化2年目の終盤に入り、法人化に伴う制度の改善により学校運営が効率化され、少しずつではありますがその効果が出始めております。長年の課題であった学部のカリキュラム改革は今年の4月から行われることが決まり、大学院改革も現在の情報システム学専攻とコンピュータシステム学専攻を統合し、「Program for Leading edge IT Specialists」

の教育を行う新たな専攻を開始することになりました。昨年秋からその教育内容を試行始めております。このことにより学部、大学院ともこの春から現在の社会ニーズに合った教育内容を提供できるようになりましたのでご報告します。

学部の新カリキュラムでは、学生は自分の将来進むべき道の希望に沿って、新しく導入された5フィールド（専門領域）、それを更に細分化した9トラック（履修モデル）の中から目標に合った領域を選び勉強ができるようになっていきます。カリキュラムは自分で計画し作成しますが、希望に沿った勉強ができるように、履修アドバイザーがきめ細かく指導し、入学時から就職までの4年間自分の希望が実現できるように支援します。コンピュータの基本原則、コンピュータの設計、インターネットの仕組み、人間とロボット、医療、大規模ソフトウェア開発などの希望する目標にあわせて、コンピュータサイエンス、コンピュータ工学、ネットワークシステム、IT応用、ソフトウェア工学といった専門領域が準備されていますので、在学中に将来の進路を履修アドバイザーの指導を受けて決めていくことができます。

一方、大学院では、国内の高度なITエンジニアが不足しているという社会的な状況を踏まえ、IT分野で海外に通じる実力を持った人材を育成するための「Program for Leading edge IT Specialists」を始めます。ここでは、実践力と創造力を育成するために、実践的経験が豊富な数多くの企業からの講師、また海外の大学との多面的連携を行っている本学の特徴を活用して海外教員を招聘し、開発現場で起こるような課題を自分でどのように解決していくかという、実践力と創造力を養う高度な教育が行われます。この3月にはその高度な教育内容を体験してもらおうという公開の集中講義があります。既に社会で活躍なされている方でも、最近の技術動向を学ぶのには大変良い機会と思いますので、奮って参加してください。

本学は、変化の早いIT分野の大学に相応しく、社会ニーズに早く対応できる教育を行っていきますので、卒業生の皆様も是非機会を見て、再度本学を訪ねて頂ければ幸いです。

末筆になりますが、卒業生の皆様の今後の更なる活躍を祈念いたします。

## 上野会長あいさつ



**同窓会長  
上野 文彦**

会津大学同窓会も今年で発足以来第5期目を迎えております。これも一重に、会員皆様のご協力、また、同窓会各理事の皆様、同窓会事務局、会津大学学生課、また、会津大学学生の皆様、その他多くの皆様のご協力によるものと、深く感謝申し上げます。

さて、会津大学同窓会では昨年10月に第4期定期総会を開催いたしました。総会では通常通り、事業報告・会計報告、また、事業計画承認・予算承認を致しましたが、今回は会則により任期が2年となっておりますので、役員改選を致しました。今までの不甲斐なさを恥じながら、再任をお引き受けさせて頂いた次第でございます。

4年前の会長就任の際、私自身は大役を預かるに当たり、素直に申しますと、どのように運営するかを迷いました。まだ、多くがまだ若い会津大学の同窓生に対しまして、どうすればお役に立てるのか、真剣に考えたのが昨日の事のように記憶に残っております。しかし、いざ考えて見ますと、すぐにいろいろ出てきました。また、周囲の理事からも多くのアイデアを頂きました。具体的には、会津大学生のための卒業生による就職ガイダンスや、就職のための講演会・講義の開催。また、多くの卒業生が勤めているIT関連企業と会津大学研究室との共同研究の促進など、きりなく多くの夢を理事会にて語ったものであります。普通の同窓会ではうまく行かない、何かしらの事業により、価値を提供することで、参加を促すようではなくてはならないと思っておりました。

しかしながら、その後数ヶ月、私自身はこれら企画性の高い事業を推進することではなく、きわめてオーソドックスな事業をきちんとやることに注力をしようと決定しました。具体的にはホームページの整備、会報の作成、会員参加による総会の実施、その総会開催時の親睦会の開催、これらに絞りました。主に理事・事務局のボランティアによる構成されている同窓会において、これらをきちんと行い、継続的にできる基盤を作成することに専念することに致しました。おかげさまで、これらの事業は定着しきちんとできるようになりました。

昨年来、次の目標として、仙台、会津、東京、大阪と、それぞれ支部がきちんとお役立ちできる事としております。そのための方法として、支部は皆様の近くでございますので、皆様の交流会の開催と致しております。

昨年、東京にて東京支部交流会を開催いたしました。東京では会員数も多いため、多くの同窓生が出席くださいました。たった一人で参加申し込みをされた方も降りましたので、実は当初理事同士で、なるべく一人でいる方にはこちらからお声掛けするようにしようとしておりました。しかしながら、いざ開催を致しますと、すぐに、皆が打ち解けあい、主にかつて会津の地で共にしたことによる、さまざま話題で話がつきませんでした。2次会にも殆どの方々が残って頂き、入りきる場所がないため、急遽、1次会場を時間延長した次第でありました。

会員数は3000名近くになっております。中には現在いろいろ悩んでいる方もいると思います。聊か過言になりますが、同窓会は人の命すら救うことができると思っただけです。交流会にご出席くださいれば、学生時代を反芻できます。思い出すことで、新たな気持ちになれると思っております。連続した時間が続く日常の中で、この節目がお役に立てればと思っております。

会津大学同窓会は会員の皆様と一緒に造っていきたくて思っております。卒業間もない方も一緒になって今後は活動していきたいと思っております。また、できるものでもあります。今後とも、会津大学同窓会の活動にご理解賜り、ご協力下さいます様、何卒宜しくお願い申し上げます。



## 浅田先生インタビュー

### はやぶさプロジェクト、JAXAのSELENEProjectに携わる



**浅田智朗 教授**

#### 略歴

浅田智朗 教授

経歴

教授

昭和26年(1951)生まれ

京都大学理学部

同大学院理学研究科 理学博士

大学院生時代から宇宙の研究をしており、10年程通産省工業技術院大阪工業技術試験所に勤務した後に退社。会津大学の教授となる。近年でははやぶさプロジェクトやNASAのアポロ計画以降最大の月探査計画とされるJAXAのSELENE Projectに携わる。はやぶさプロジェクトでは、コンピュータビジョンとコンピュータグラフィックスの担当をしていた。コンピュータビジョンとは不規則な小惑星の全体形状をステレオ視の原理で定量的に把握するもの、コンピュータグラフィックスでは、はやぶさの位置とカメラ視野を可視化するHARMONICSというツールで貢献した。SELENE Projectでは現在月面地図の製作が研究室で行われておりニュースでも取り上げられた。今後ますます活躍が期待される。

[ 応用光学、固体宇宙科学、画像計測の分野を専門とし、従来の既成概念にとらわれないうで自由な発想で研究を進めることを理念とする。現在の主たる研究テーマは、「月面のリモートセンシング」、「顔表情の認識」、「ステレオ法による三次元運動解析技術の高度化」等]

私は以前に学生部長をやっていた関係で同窓会に携ってきました。この大学の同窓会は形の上では創立当初からありましたが、事実上数年間はほとんど活動していなかったと認識しています。5年程前、私が学生部長のときに同窓会を形だけではなく、もう少し根強い組織にしようと思いました。東京、大阪、仙台、(当時は会津ではなく)郡山の4箇所同窓会の総会を開いたこと機会にして、ある程度まとまってきた支部が動き出し、それから少しずつ変わってきたようです。今までは行事がある際は同窓会長が出席したり、時々懇親会を開くだけでしたが、少しずつ本来の同窓会の形になりつつあるようです。しかしながらまだ10年程の歴史しかありません。

100年ほど続く大学見るとわかるのですが、卒業生には様々な人間がいます。卒業生の中には当然、社会の中で様々な地位に上がってくる人がおり、職業や仕事内容によっては直接自分の母校の大学の先生や学生にお世話になる人もいれば、全然違う人もいます。会津大学創立以来、何人かはベンチャー企業を起こしたり、あるいは家業を継ぐなど何らかの形で社会的地位にある人もいますが、いわゆる社会に知られた企業でそれなりに活躍するというのはなかなか難しいようです。

卒業生の9割ほどが英語やコンピュータに関わった仕事に就いていますが、就職した初

期の頃は不安に思う事が多々あることでしょう。しかしこの大学が英語とコンピュータに力を入れていることは皆さん承知のことと思いますが、学んできたことが必ず、皆さんの自信に繋がるはずで。

まず英語の話をする、例えば英検1級を持っている人でも、案外外人コンプレックスが抜けきれていません。物凄く取り難いものです。英語の能力は凄く高いにも関わらず外国人を目の前にすると声が出なくなってしまいます。「少しでも間違えたら恥ずかしい」という気持ちがある上に、また英語ができるが故にかえって間違えたらいけないというのがあり、完璧に話そうとして逆に話せなくなってしまうようです。この大学の卒業生は英語の能力は決して高くはありません。しかしこの大学には外国人の先生が大勢いらっしゃって、皆さんは様々な英語を聞き、また話しています。その結果皆さんは、外人コンプレックスもなく気軽に話すことができます。恥ずかしがらず間違えたら後で直してゆくことで、段々と英語でのコミュニケーションを学ぶ環境があることは、大きなアドバンテージです。覚えていくことができるというのは凄いことです。社会に出たときに大いに役立ちます。

次にコンピュータの話をする、会津大学ではUNIXを使っていますが、世間では8割から9割の会社がWindowsを使っています。その上UNIXを覚えるよりはWordやExcelの使い方を覚えたほうが役に立つという話があります。確かに入社するとWordやExcelを習った人間は手際良くやり、それに比べたら会津大生は、初めは手間取りもしますが、そんなものはすぐに覚えます。より高度なことをやることになった時に、研修などで勉強が必要になるのですが、その勉強とはこの大学で学んだことが多く含まれています。基本的な概念やUNIXを理解しており、会社に入って勉強しなければならないことを一度学んでいるので頭にすらすら入り、次へ次へと進んでいくことができます。そしてしばらくして、同期の新入社員のグループの中で自然とリーダー格になっている会津大学の卒業生が結構いるようです。

歴史ある大学を見ればわかりますが、そういう人達がたくさん出てくると単純に金銭面だけではなく、スポーツや色々な分野での応援など凄い力になってきます。そして応援する人たちが出てくると学生自身も頑張ろうという気になれます。しかしながらまだ中堅会社のリーダーなので仕事も忙しく、なかなか母校のことを振り返る余裕は出てないようです。余裕が出る年代になるまでには、少なく見てもあと5年程はかかるでしょう。そして母校を振り返る気持ちが出てくると、様々な面でフィードバックが返ってくるような形になるのではないのでしょうか。目先の小細工をやらずにやることをしっかりコツコツとやっていけば、それを見てくれる人は必ずあり、それなりに評価されて、報われる時が必ず来ると思います。人の目を気にするよりも自分の仕事をきちんとやっていけば、後から何かがついてきます。決して悪い方向には行かないでしょう。やるだけやれば必ず成果は出ます。天狗にならず精進し、そして自分たちに自信を持ってください。

卒業しても会津大学が自分の母校であることには変わりはありませんので、大学に顔を出し在学生に見える形でコミュニケーションを取ってあげてください。この大学では、大学の同窓会はありますがサークルの同窓会、つまりOB会はまだありません。現役は適宜OB会に活動内容を伝え、時にはOBが大学を訪ねて現役にはっぱを掛けたり、差し入れをしたりするとお互い励みになります。また同窓生は後輩たちの今後の活動や活躍に期待しててください。同窓会がそういう形になること、そしてその力や繋がりを今後同窓会に期待しています。

## 大学の近況

今年度、会津大学は国内外において東京大学、韓国の高麗大学電子工学部、中国の復旦大学、北京大学、華中科技大学、ハルビン工業大学ソフトウェア学院 / コンピュータ科学技術学院、イタリアのローマ大学サピエンツァとの交流協定などを締結及び締結協議を行いました。主な協定内容として、共同研究や学生交流などがあります。



会津大学校門前

また「月周回衛星 (SELENE)」のデータ利用推進に関する覚書、東邦銀行 (株) と「連携協力協定」、

サン・マイクロシステムズと「Sun COE」の契約、国民生活金融公庫「産学連携の協力推進に関する覚書」、ノボルビルスク国立工科大学と大学院間デュアルディグリープログラムに関する覚書、「東邦・会津大学提携教育ローン」に関する協定書交換など企業や大学で覚書や契約などの提携を盛んに行いました。これにより会津大学及び地域産業の活性化が期待されます。

実際に会津大が関わっているものや行った活動としては、地球シュミレータフォーラム開催、会津大学主催合同国際学会開催、ベンチャー体験工房「会津IT日新館」開講、会津大学発ベンチャーNSTラボ独自開発サービス公開テスト開始、会津大学院ITスペシャリスト外部講師による授業やセミナーの開、などがあげられます。

この他に、会津大学、東京大学、JAXA等の共同の研究結果が「サイエンス (電子版)」に掲載され、本学が「情報教育がしっかりしている印象の大学」二位に選出、取り組みが学生支援GPと現代GPに選定、ACM/ICOC2007アジア地区予選東京大会四位に入賞、学生、教員の活躍が多く、好ましい評価を受ける年でもありました。今後も学生、教員の活躍が期待されます。

4月18日	東京大学及び華中化技大学と交流協定などを締結、共同研究や学生交流を促進
4月19日	会津大学、東京大学、JAXA等の共同の研究結果が「サイエンス (電子版)」に掲載
5月19日	TRYシリーズ「オンラインソフト「ムードル」を使った効果的な授業」、「パソコン組み立て体験」
6月14日	ハルビン工業大学ソフトウェア学院/コンピュータ科学技術学院と交流協定などを締結
6月20日	東邦銀行 (株) と「連携協力協定」を締結
6月28日	サン・マイクロシステムズと「Sun COE」の契約を締結
7月5日	地球シュミレータフォーラム開催
7月25日	会津大学発ベンチャー企業に称号授与
8月4日	コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学2007開催
8月6日	会津大学の取り組みが現代GPに選定されました
8月9日	国民生活金融公庫「産学連携の協力推進に関する覚書」を締結
8月28日	ノボルビルスク国立工科大学と大学院間デュアルディグリープログラムに関する覚書に調印
8月29日	「情報教育がしっかりしている印象の大学」2位に会津大
8月30日	会津大学の取り組みが学生支援GPに選定
9月14日	月周回衛星「かぐや (SELENE) 打ち上げライブ中継開催」

10月4日	「東邦・会津大学提携教育ローン」に関する協定書交換式
10月6日	会津大学学園祭「蒼翔祭」開催
10月16日	会津大学主催合同国際学会開催
10月16日	高麗大学電子工学部(韓国)と学部間交流活動に関する覚書を締結
10月17日	復旦大学(中国)と交流計画について協議
10月25日	ベンチャー体験工房「会津IT日新館」開講
11月6日	会津大学発ベンチャーNSTラボ独自開発サービス公開 テスト開始
11月10日	パソコン甲子園2007本選開催
11月2日	ACM/ICOC2007アジア地区予選東京大会4位入賞
11月12日	ローズハルマン工科大学(アメリカ)と国際単位互換プログラムに関する覚書に締結
11月16日	会津大学初代学長國井利泰博士による特別セミナー
11月20日	角山学長ら会津大学訪中団が北京大学と協定を締結
11月26日	上海大学・復旦大学(中国)とデュアルディグリープログラムに関する覚書を締結
11月29日	京都外国語大学との「交流及び連携に関する基本協定」締結式
12月7日	「福島県情報産業協会」において外国人留学生が研究発表
12月27日	ローマ大学サピエンツァ(イタリア)と国際交流協定を締結

## 会津大学の風景



中庭から見た図書館



中庭から見た食堂

## 世界水準のプロジェクト開発を担い地域との接点強化

会津大学が持つIT教育・研究の経験を活用して地元である会津地域との接点を強化し、広い見識と高い技能を持ち、日々新しいものを追い求め、かつ、地元会津地域の産業振興等に貢献する志の高い若手人材を地域とともに育成していくために新しい取り組み「会津IT日新館」が始まりました。

また、外国人教員が約半数を占め、英語を常時使用する国際的教育環境下での研究開発過程を通し、世界最高水準のIT専門家の育成を行い、我が国産業界の要請に応えて、大規模情報インフラ・Webコンピューティング、組み込みシステム分野での信頼性とセキュリティの高いソフトウェア開発を中核とした修士課程の教育を行い、修了者には、直にITシステムアーキテクトとして、国内外のプロジェクト開発をリードする力を備えさせることを目指す会津大学大学院コンピュータ理工学研究科を設けました。



## 会津IT日新館

### 名称の由来

「会津IT日新館」という名称は、会津藩校日新館の「会津の興隆は人材の養成にあり」という精神を、会津大学が専門とするIT教育を通して現代に活かそうという考えからつけられたものです。

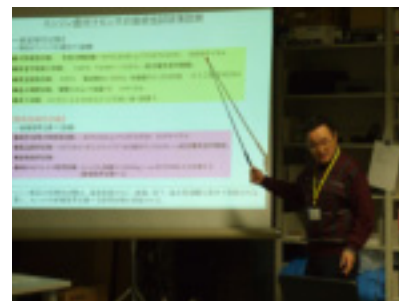
### 特徴

1. 「ベンチャー起業学」、「IT応用技術」、「ものづくり技術・精神」、「地域・伝統学」以上の四つのテーマで基本コース（外部講師による講義）を開講。
2. 学生が自主的にチームの構成と課題の選択をする学生主導型の研究開発拠点「ベンチャー体験工房」群を構築。
3. ベンチャーの見学やインターンシップ、起業のプラン作成・発表活動等を通じた起業家精神の育成。
4. 各工房における大学教員と企業人による共同指導。



講義の様子

浅野コーディ  
ネータによる講義



## コンピュータ理工学研究科

### 学生の役割の活発化

従来の教員から学生への一方的なコミュニケーションを中心とした講義と異なった場を設けて、学生から教員・学生同士と、学生が多方向のコミュニケーションが図れるようにし、また、学生自身のイニシアチブで問題を発見・解決する能力を身につけさせます。学習のプロセスは、教員による授業・演習・試験から、学生のセミナーにおけるプレゼンテーション、コンテストでの競争、ソフトウェア開発アリーナにおいて実社会での問題解決に参画することにシフトします。学生に多種多様な機会を与えること、基本知識と実際の問題との関係について広い展望を身につけさせることに特に配慮します。



# 2007年度就職状況

## 【学部】

は県内企業  
は東証一部上場企業

企業名	人数	企業名	人数	企業名	人数
NTTコムウェア	1	システムメイク	1	インターネットイニシアティブ	2
NTTデータソフィア	1	芝通	1	インフォコム	2
NTTデータフロンティア	1	情報システムエンジニアリング	1	エキサイト	1
FFC	1	シンカーミクスセル	1	サイバーエージェント	1
NEC情報システムズ	1	函研	1	ヤフー	5
NECソフトウェア東北	2	セントラル情報センター	1	アーバンビルド	1
NECワイヤレスネットワークス	1	ナブアシスト	1	総合警備保障	1
アルパインソフトウェア	1	ニイウス	1	日立インフォメーションアカデミー	1
キャノンソフトウェア	1	ニッポンダイナミックシステムズ	1	NEC福井	1
ソニーエンジニアリング	1	日本アイ・ピー・エム (IBM)	2	PFU	1
デンソーテクノ	1	日本デジタル研究所	1	小野測器	1
東芝ソリューション	1	富士インフォックス・ネット	1	協和エクシオ	1
日本電気通信システム	1	ベーシック	1	新日本無線	1
日立情報システムズ	1	ミツエーリンクス	1	東京エレクトロンAT	1
日立ソフトウェアエンジニアリング	1	メタテクノ	1	日本アドバンステクノロジー	1
日立ハイシステム21	1	ロフトワーク	1	日本電気	1
富士通新潟システムズ	2	NSSLCサービス	1	日本電気航空宇宙システム	1
三菱電機インフォメーションシステムズ	1	伊藤忠テクノソリューションズ	1	パナソニック半導体システムテクノ	1
明電ソフトウェア	1	エヌシステム	1	浜松ホトニクス	1
リコーソフトウェア (旧:リコーシステム開発)	1	新日鉄ソリューションズ	1	富士通	1
CLINKS	1	東北インフォメーション・システムズ	1	村田製作所	2
DTS	1	ニッセイ情報テクノロジー	1	オリンピア	1
KBMJ	1	日本証券テクノロジー	1	セガ	1
NECシステムテクノロジー	1	日本総合研究所	1	任天堂	1
アークシステム	2	日立システムバリュー	2	アルプス技研	2
インターアクト	1	日立東日本ソリューションズ	2	トランス・コスモス	1
インターネットウェア	1	日立ビジネスソリューション	1	メイテック	2
インテック	1	ヤマトシステム開発	1	リクルートスタッフィング	1
エス・ケー・アイ	1	アイソリューションズ	1	トヨタコミュニケーションシステム	1
エヌティティシステム開発	1	朝日システム	1	フタバ産業	1
エヌティティシステム技研	1	上越コンピュータサービス	1	アプクマ	1
クレスコ	1	シンク	1	東機エレクトロニクス	1
コア	1	日本ビジネスシステム (FCS)	1	新光商事	1
コンピュータサイエンス	1	福島コンピュータシステム (FCS)	1	計	118

## 【院】

企業名	人数	企業名	人数
NTTデータ	1	福島県中央計算センター	1
NTTデータソリューション	1	QUICK	1
NECソフト	2	セック	1
NECソフトウェア東北	1	PFC	1
三菱電機情報ネットワーク	1	Spansion Japan	1
CDS	1	アルパイン	2
TIS	1	シャープ	1
アイヴィス	1	日本電気	1
アクセンチュア	1	パナソニック半導体システムテクノ	1
永和システム	1	日立製作所	1
クエスト	1	日立超LSIシステムズ	1
さくらKCS	2	ハル研究所	1
サンプリングシステムズ	1	トヨタケーラム	1
NSSLCサービス	1	トヨタテクニカルディベロップメント	1
NTTデータセキスイシステムズ	1	マツダ	1
アイ・ティ・フロンティア	1	会津オリンパス	1
オージス総研	1	矢崎総業	1
みずほ情報総合研究所	1	理想科学工業	2
あいづ・ジャパン	1	計	43

資料提供 : 会津大学学生課

# 同窓会事業報告

## 総会報告

平成19年度会津大学同窓会総会が、平成19年10月6日(土)午後4時から会津大学研究棟S1講義室で開催されました。当日は同窓生役員約15名が出席し、今後の同窓会について議論しました。また、学生課からも1名が出席されました。

まず、会長が冒頭に挨拶をおこない、その後、角山学長から挨拶いただきました。その後、議長選出により上野会長が議長に選出され、議事に入りました。

議事では、まず、報告承認事項として、平成18年度の事業報告及び収支決算報告をいたしました。報告事項の後、議案について出席された会員の皆様に審議いただきました。

議案については、まず、第1号議案「平成19年度事業計画案」及び第2号議案「平成19年度収支予算案について」を審議いただき、いずれも原案どおり承認されました。次に、第3号議案「会津大学同窓会会則の一部変更について」を審議いただきました。内容は「暫定予算の明文化」と「組織体制の見直し」でありましたが、これについては、内容を一部修正することで承認されました。最後に、第4号議案「役員改選について」を審議いただき、事務局案のとおり承認され、閉会となりました。限られた時間の中で、全国から集まった同級生役員が真剣に議論を交わしました。

また、総会終了後、会津大学後援会との合同で懇親会を開催しました。参加者全員が今後の会津大学について意見を交わし、交流を深めました。



### ・平成18年度事業報告

#### 1. ホームページ

同窓会事業の告知と事業への参加促進を目的とし、ホームページの整備を行った。内容としては、同窓会会則、役員及び、方向性等に関する情報を公開しました。また、同窓生の住所録作成のため、所在地の入力手段の提供を同ホームページ内に整備しました。

#### 2. 同窓会誌

「今の会津大学を知る」を目的に、同窓会報の作成をしました。

内容は、学生の資格取得状況、就職状況、総会報告、取材に関しては角山学長に行い、記事の掲載をしました。配布方法として、Webからのダウンロードを主としました。

### 3. 総会及び懇親会

一年の経緯として、総会で、平成17年度事業報告及び決算報告を行うとともに平成18年度の事業計画及び予算が承認されました。さらに、任期満了に伴う役員の改選、規約変更を行いました。また、より多くの方に参加をして頂くために会津大学の学園祭と同時期に開催をしました。懇親会に関しては、会津大学後援会と合同で開催し、会津大学「櫛」にて行いました。

### 4. 交流会の開催

平成18年度からの新たな事業として、支部単位での交流会を開催しました。平成18年度においては、12月に会津支部、3月に東京支部で開催しました。

### 5. 独立行政法人化記念事業への支援

会津大学が主催する独立行政法人化記念事業「日経ビジネスクリエーション塾」への支援を行いました。

## ・平成18年度同窓会収支決算

#### 【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	摘要
前期繰越金	3,987,343	3,987,343	平成17年度より繰越
会費	2,490,000	2,490,000	14期生249名×10,000円
雑収入	40	2,767	
合計	6,477,383	6,480,110	

#### 【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	摘要
事業費	500,000	500,000	会報・HP委託費
交流会補助費	300,000	106,243	東京支部交流会及び会津支部交流会
雑費	50,000	49,800	事務用品、振込手数料、理事会会場使用料
管理費	50,000	17,430	サーバー使用料・ドメイン維持費
旅費	500,000	500,975	出席役員旅費等
郵送料	180,000	99,600	総会通知等
負担費	1,000,000	1,000,000	独立行政法人化記念事業負担金
予備費	500,000	0	
合計	3,080,000	2,274,048	

#### 【収支決算額】

収入総額	6,480,110円
支出総額	2,274,048円
繰越金	4,206,062円



## ・平成19年度事業計画

### 理 念

『出会いから感動を』

我々の第二の故郷である会津での出会いをきっかけとして、価値ある人のつながり、新たな出会いを創造する。

### 活動指針

- 『一．つながり』 同窓生、在校生、教職員をつなぐ同窓会
- 『二．継承 - 先輩から後輩へ - 』 建学の精神を次代へ伝える同窓会
- 『三．若い力』 大学と共に成長を続ける同窓会

### 事業内容

会報誌の発行（平成16年度より継続）

会津大学や同窓生の近況を伝えることを目的として、会報誌を発行します。

（平成16年度より、年一回発行。）

会津大学同窓会サイトの運営（平成16年度より継続）

同窓会組織、ならびに同窓会事業に対する理解を深めてもらい、様々な活動への参加を促進する為に、同窓生をターゲットとしたサイトの運営を行います。

また、今後は、同サイト上に同窓会理事会の活動状況（理事会議事録など）も公開していきます。

（平成16年度事業として開設済み、<http://www.u-aizuob.info/>）

同窓生懇親会・交流会の開催（平成18年度より継続）

同窓生の再開の場を交流会により提供します。総会と合わせた懇親会の他に、各支部単位での交流会など遠く離れた同窓生も気軽に参加できる場の実現を目指します。

（平成18年度、会津支部、東京支部にて開催。）

会津大学事業活動の支援

平成18年に独立行政法人として新たな道を歩みだした母校会津大学の様々な活動に対する支援を行います。

（平成18年度、独立行政法人化に伴う記念イベントへの支援、同窓会サイトや交流会での活動の告知など）

その他

在校生に対する就職活動の支援（OB/OG訪問先として協力いただける同窓生の紹介など）を検討していきます。また、今後はますます支部単位での活動を充足していくため、世代ごとに連絡員（仮称）を配し、広い年代に参加しやすい開かれた同窓会としていきます。

## ・平成19年度同窓会収支予算

## 【収入の部】

(単位:円)

科目	本年度予算	前年度予算	増減	摘要
前期繰越金	4,206,062	3,987,343	218,719	平成18年度より繰越
会費	2,550,000	2,490,000	60,000	15期生255名×10,000円
雑収入	4,000	40	3,960	
合計	6,760,062	6,477,383	282,679	

## 【支出の部】

(単位:円)

科目	本年度予算	前年度予算	増減	摘要
事業費	500,000	500,000	0	会報・HP委託費
交流会補助費	600,000	300,000	300,000	
雑費	70,000	50,000	20,000	事務用品、振込手数料、理事会会場使用料
管理費	20,000	50,000	-30,000	サーバー使用料・ドメイン維持費
旅費	700,000	500,000	200,000	出席役員旅費
郵送料	130,000	180,000	-50,000	総会通知等
負担費	0	1,000,000	-1,000,000	
予備費	300,000	500,000	-200,000	
合計	2,320,000	3,080,000	-760,000	

## 【収支予算額】

収入予算額 6,760,062円

支出予算額 2,320,000円

繰越予算金 4,440,062円

科目間の流用は、理事会決議により可とする。

## ・平成19年度役員一覧

	役職	氏名	アドレス	居住地	支部
1	会長	上野文彦	ueno@u-aizuob.info	福島県	会津
2	副会長兼東京支部長	野山孝太郎	noyama@u-aizuob.info	埼玉県	東京
3	会津支部長	佐藤敏博	satou-t@u-aizuob.info	福島県	会津
4	仙台支部長	桜井一徳	sakurai@u-aizuob.info	宮城県	仙台
5	大阪支部長	相馬正継	souma@u-aizuob.info	大阪府	大阪
6	理事	佐藤和彦	satou@u-aizuob.info	北海道	会津
7	理事	大堀満	oohori@u-aizuob.info	福島県	会津
8	理事	高橋朋也	takahashi@u-aizuob.info	東京都	東京
9	理事	板橋秀樹	itabashi@u-aizuob.info	宮城県	仙台
10	理事	野仲真佐男	nonaka@u-aizuob.info	大阪府	大阪
11	理事	前田諭志	maeda@u-aizuob.info	福島県	会津
12	事務局長	小林呂嘉	kobayashi@u-aizuob.info	福島県	会津
13	監事	小野洋	ono@u-aizuob.info	東京都	東京
14	監事	片平光洋	katahira@u-aizuob.info	福島県	会津

## 交流会報告

同窓会では、平成18年度より支部単位での交流会を実施しております。

平成19年度は、各支部でそれぞれ以下のとおり行われました。交流会は今後も継続して実施していきますので、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

### 平成19年度実績

- ・大阪支部  
開催月日 平成19年9月29日(土)  
開催場所 大阪市内
- ・会津支部  
開催月日 平成19年10月6日(土)  
開催場所 会津若松市内
- ・東京支部  
開催月日 平成20年3月15日(土)  
開催場所 東京都内
- ・仙台支部  
開催月日 平成20年3月22日(土)  
開催場所 仙台市内

3月15日に開催された東京支部交流会。会員の皆さんへの案内が直前となり、出席される方が少ないのではないかと不安の声もありましたが、結果約25名の方に出席いただきました。旧友との再会のみならず、大学時代にはなかった多くの新たな交流が生まれ、盛況の中幕を閉じました。また、ほとんどの方が2次会へも参加され、夜遅くまで楽しく過ごしました。

### ..... 交流会の写真 .....



上は東京支部交流会の写真  
旧友との再会や新たな出会いで盛り上がりました。

下は東京支部交流会の2次会の写真  
多くの方が2次会にも出席されました。



.....



## 連絡先の登録についてのお願い

本同窓会では、以下の目的のため、同窓生の名簿を管理しております。

個人情報利用目的

- ・各種同窓会及び大学からの通知
- ・各支部活動に関する通知
- ・在学生の就職活動への支援（特に企業に就職されているOB・OGへの情報提供依頼）  
なお、この場合は必ず会津大学学生課が依頼する同窓生の許可を得た上で、学生に知らせています。

皆様の情報は、卒業時に行っていただいた登録内容により把握いたしておりますが、登録いただきました住所等連絡先の内容にご変更または追加がありました場合は、お手数でございますが、以下の方法により登録いただきますようお願いいたします。

特に、Eメールアドレスをお持ちの方でまだ登録いただいていない方は、是非ご登録いただきますようお願いいたします。

会員情報登録方法

同窓会ホームページ (<http://u-aizuob.info/>) 「会員情報登録」項目を入力し「会員情報登録」ボタンをクリック

### = 編集後記 =

毎月作成している新聞とは違う、会報の編集ということで、至らない点が多々あったと思います。もうすこし早く編集を始めていれば、なんてことも思った時がありました。しかしこの会報が完成できたのは、同窓会関係者の方をはじめとする、挨拶を寄稿して下さった先生方のご協力によるものです。ありがとうございました。

会津大学新聞部

〔発行〕会津大学同窓会

〔住所〕〒965-8580 会津若松市一箕町鶴賀字上居合90 会津大学学生課

〔電話〕0242 - 37 - 2600

〔FAX〕0242 - 37 - 2526  
会津大学同窓会

2008 禁無断転載